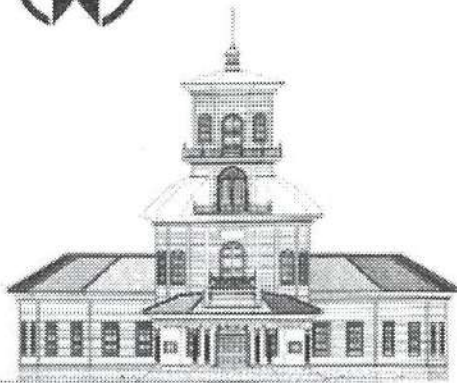




ISSN 1340-0959



国指定重要文化財旧済生館本館

郷土館だより

No.99

令和 7. 3. 31 発行

〒990-0826 山形市霞城町1番1号
山形市郷土館 TEL/FAX 023(644)0253

URL <https://www.city.yamagata-yamagata.lg.jp/bunkasports/bunkazai/1006705/1008027.html>

山形アーカイブと「ななはく！」の楽しみ方

山形大学学士課程基盤教育院 教授

山形大学附属博物館 学芸研究員 佐藤 琴

2月と9月にアズ七日町や御殿堰のあたりで真っ赤なTシャツを着た人々を見かけたことはありませんか？彼らは大学生のような出で立ちの方が多いですが、時々髪に白いものが混じっている方もいます。そして真っ赤なTシャツの胸の部分には白抜きで「ななはく！」と書かれています。

さて、彼らは何をしているのでしょうか。そもそも「ななはく！」とはどういう意味なのでしょう？

本稿はそのことを説明します。まず、「山形アーカイブ」をご覧ください。スマートフォンで下のQRコードを読み込むと図2がでてきます。「山形アーカイブ」のタイトルの下の文翔館の写真は、1877年(明治10)に建てられた初代県庁の画像(絵葉書)から始まり、1911年(明治44)の市北大火で焼失した跡地、1916年に完成した新県庁(現在の文翔館)、戦前、戦後、そして現在と横にスライドして移り変わっていきます。しかもどの写真も七日町大通りから撮影したものです。



図1 山形アーカイブ

およそ150年の県庁の変遷を定点観測しているかのように見ることができます。

そして、スマートフォンで見ると、その下にある地図が現れます。(図3)。説明にあるとおり、現在の地図と古い地図を重ね合わせて比較できます。しかも制作された時期や範囲が異なる地図が複数

用意されており、江戸時代から昭和初期の山形の移り変わりもわかります。それだけでなく、地図の上の「別ページで開く」をクリックすると全画面となり、GPSをオンにしている場合は地図の上にスマホを操作している方の現在地が赤い円で表示されます。つまり、スマホで重ね合わせ地図を見ながら、自分がいる場所が昔どうだったのかを確認できます。まち歩きのお供にぜひご利用ください。



図2 山形アーカイブ
トップページ